

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ D					単位	1.0
担当教員	鶴田 禎人						
授業形態	実技・実習	開講期間	後期	配当年次	4	授業番号	2525

●授業のテーマ

ソーシャルワークの専門業務を深めるー実習体験をふまえて

●到達目標

実習体験を振り返り、専門的なソーシャルワークの意義・役割をとらえ返し、実際に学び得た内容を深めてまとめる。社会福祉士に求められる役割・課題を体系的に整理・理論化していく能力を習得する。また、専門的力を高めるための自己自身の課題を具体的に見出す。

●学習内容(授業概要)

実習の事後指導に位置づける。現場での体験・活動を振り返り、ソーシャルワークの専門性、実際の展開過程を深め直す。とくに社会福祉士の職務のあり方を系統的に探求していく力を養う。

実習経験にもとづいて各自の成果・教訓を整理し、集団的に交流する。

各自の経験を評価・総括してまとめ、共同学習を行う。また、「体験報告会」でプレゼンテーションとディベート・討議を行い、全員で『体験報告集』を作成する。

●学習内容(授業計画)

1. 実習のまとめに向けてー視点と内容
2. 実習体験の交流①(高齢者分野)
3. " ②(児童・障害者分野)
4. " ③(地域・行政・医療福祉分野)
5. 実習記録を用いた具体的考察ー①(高齢者分野)
6. " ②(児童・障害者分野)
7. " ③(地域・行政・医療福祉分野)
8. 「ソーシャルワーク実習体験報告会」
9. 実習の成果・教訓の整理
10. 各自の自己評価
11. 事後の学習課題について
12. ソーシャルワークの専門的援助技術に関する実践的考察と理論化
13. 実習総括レポートについて
14. 実習総括レポートの作成指導①案の検討
15. " ②まとめ

※授業期間のうち、実習生全員で経験や教訓を交流しあう「体験報告会」を開催し、プレゼンテーションとディベート・討議を通じて事後の振り返りをさらに充実させる。

※実習総括レポートの作成については、上記の授業計画以外に個人指導の時間帯を随時設ける。

●準備学習・事後学習の内容

準備では、実習先での経験を事実即して振り返り、記録等をていねいに整理しておく。また、実習先指導者から受けた助言・指導や評価を手がかりにして成果と教訓をまとめる。事後には、自分ができたことや

不十分さを残した点などへの自己評価をもとに、各自の力量形成に向けた課題も明らかにする。

また、学内の授業による理論学習ともつきあわせ、実習経験をより豊かなものにする。とくに「ソーシャルワーク演習」の授業内容と有機的に関連させ、ソーシャルワークや社会福祉士の専門性についての学習をさらに深める。

●成績評価方法・基準

以下の点を指標として総合評価する。

- ・実習経験の深め方と共同学習 …約3分の1
- ・総括レポートの内容と提出 …約3分の1
- ・各自が修得できた専門的力量、資質の向上…約3分の1

●テキスト（必携）

授業時に指示する。

●参考文献／その他

『ソーシャルワーク実習の手引き』『ソーシャルワーク実習記録』
配付資料・プリント等

●履修上の注意

事後指導も毎回不可欠な内容で行われる。発表・交流の場や提出すべきレポートの作成準備もあるので全て出席し、やむを得ず欠席する事情が生じた場合には必ず指導担当教員と相談し、補講時間等の指示を受けること